

第3回呉市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事録

日時：令和4年7月12日（火）10:00～12:00

場所：本庁舎 7階 752会議室

出席：安倍広志委員，岡本二郎委員（副会長），小野香澄委員，岸泰子委員※，伊藤雅哉氏（白井比佐雄委員代理），砂本文彦委員，戸高一成委員※，濱田みゆき委員，平田己恵子委員，藤田盟児委員（会長），古本信治委員

※はオンライン

欠席：有松唯委員，上寺哲也委員，兼田勝彦委員，森原由佳委員

1 開会

事務局：本日はご出席いただきありがとうございます。ただいまから策定協議会を開会いたします。文化スポーツ部長が神垣から安倍広志に代わりましたのでご紹介いたします。

安倍：4月から文化スポーツ部にきました安倍です。文化財とまちづくりを融合する計画ですが、人と人の関係づくりだと思ふ。計画に携われることに喜びを感じている。

事務局：藤田会長から挨拶をお願いします。

藤田（以下会長）：お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。協議会も3回目ということで、いよいよまとまってくることになる。バランス良くまとめていきたい。ご意見がありましたらご遠慮なく言って欲しい。この先どんどん変えにくくなるので、言うことは早めに言っていただき、進められたらと思います。

司会：要綱により会長が議長を務めることになっていますので、議事を議長におまかせしたい。

2 協議事項

（1）計画の目的，将来像，基本的な方向性について 資料1・2

会長：議事に入りたい。一つ目の協議事項。計画の目的，将来像，基本的な方向性について。事務局からお願いします。

事務局：（資料説明）

会長：資料1の2枚目に計画の目的と方向性の流れがあり，資料2の目的，将来像，方向性について説明いただいた。資料1の1枚目にあるように，目的は序章に入り，将来像・方向性は4章に入る。みなさんからご質疑，ご意見ありましたらお願いしたい。

会長：資料2の3の方向性は，1の目的，2の将来像が具体化された内容かと思う。それぞれどこに対応しているのか。

事務局：対応についてはきちんと整理できていないため，次回までに整理する。

会長：市域で「共有」でなく、「保存」という終わりになっていけば対応が明確になる。

言葉の使い方だと思うので、整理をお願いしたい。目的に対してどう繋がっているか、キーワードで繋がりが分かるようにしていただければと思う。

会長：抽象的な言葉が並ぶところなので、すぐには意見が出にくいと思う。もう少し具体的なところを進めつつ、ご意見があったら、言っていただくこととしたい。

岡本：p 3の基本的な方向性の①について、基本的なベースがしっかりしてないと先に進めないと思うので、基礎データ作りをまずはしっかりまずはやってほしい。呉市の文化財としてふさわしいものを、的確に、網羅的に抽出し、将来に向けて調査と記録をした方が良い。悉皆調査をどの位できるか分からないが、まずはそこがベースと思う。

会長：構成からいうと、5章の文化財に関する調査のところに当たる。今回の協議事項4で報告があるということなので、後ほど、もう一度ご意見いただけたらと思う。調査の不足箇所について各委員から意見があり、事務局で対応を少しずつ検討しているということ。課題として残っていることを計画書に記すことが大事。後々、継続していくベースになるので、遠慮せず言っていただいて、文言を入れていければ良いと思う。

安倍：初参加なので前回までにあったかもしれないが、計画というからには実行して評価が必要と思う。全体の計画のなかで評価をどうしていくかの議論はこれまでであったのか。

藤田：PDCAでいうとCのところ。今はまだやってない。

事務局：資料1のフローでいうと、序章に計画の進捗管理と評価の項目がある。まだ協議会に具体的な内容は諮っていないが、計画に書くことになる。

小野：目的が大事だと思っている。その後のあらゆる内容に反映される。目的は、計画をまとめる時に改めて協議をするのか。②の部分が本来の目的になるかと思う。その部分を明確にし、小項目ができていくイメージと思う。現在の文章だとまだ目的がわからない。

会長：目的について、①認識・継承、②活用の機運醸成、③やり方・仕組みづくりとあるが、ぜんぶ具体的なパーツなのでその上に大きな目標が100～200字位あって、それでどう調べて、まとめて、発信して、仕組みをつくるかということになる。次回までに目標の案を出してもらって、協議会でもんでまとめる必要がある。目的、将来像、方向性は計画の枠組みになるところ。計画全体をまとめる文章なのでとても大事。最後の最後まで、より良いものに推敲していく方が良い。論文を書く時も、はじめには最後に書くのが鉄則。いま協議しているところは最後に、改めてまとめるとイメージしていただきたい。

戸高：非常によくまとまって具体的な作業も書けているが、計画の推進体制として文化振興課が全体を統括し、まとめるということか。中心的に指導、支援する組織や制度がしっかりしていると動きやすい。呉市には文化財が多い。未登録のものも含めて2000以上のリストがあるが、あまり多すぎると全体のインパクトがなくなってしまうので、何を守るべきか絞ることが必要。重文があって国宝があるように、呉市にある貴重で日本全国に発信していけるもの、それを支える文化財が地域にたくさんあるという構造でいくと、道筋がはっきりする。全体をきちんとまとめていくための絞り方があると思う。

安倍：計画を所管するのは文化振興課だが、計画を進めていくには全庁的な協力も必要。観光、市民協働など全庁的な動きになると思う。市民にもご協力いただくということで、計画の所管は文化振興課だが、全庁的な動きと考えている。

会長：県の大綱との摺り合わせはどうなっているか。

事務局：県の大綱と摺り合わせしながら、進行管理や軌道修正も必要になるので、今後の策定協議会のなか決めていくことになる。他の市町村の例だと、策定協議会をそのまま維持して計画を進捗管理している。

伊藤：資料は非常に良くまとまっている。文言に落とし込んでいく時には、大綱との整合を見ていかないといけないと思っている。構成などは分かりやすいので、このまま進めていければ良いのではないか。

会長：文化財をものすごく広く捉えているが、どこをポイントにすると波及効果が大きいとか、広くとらえた文化財の整理の仕方はどう考えるか。

事務局：次の説明になるが、関連文化財群ということでたくさんある文化財をグループ化して活用を考えていく。テーマの中で中心になる文化財、構成文化財ということで重みづけをしたい。措置・取組みの中で中心になる文化財を明確にしていくことが、今後の作業になる。

岸：分かりやすくまとめていただいていると思う。ただ、正直これをできるのかなと不安に思っている。実施するのは大変だろうと思う。かなり戦略的に進めていかないといけない。計画として書くと実効性が問われるので、今後、精査しながら、各章が出てきた段階で練り直す必要もあるのではと思っている。質問だが、市の総合計画・上位計画との関わりはどうなっているのか。

安倍：長期計画は上位計画として位置づけられるので、目で見えて分かるような形で整理をしてもらいたいと思う。大きな目的との精査とあわせて検討していくことになる。

会長：序章の5あたりで、ビジュアルと言葉で示していただきたい。

会長：いろいろと課題を抱えているが、次回までに案を出してもらって検討していきたい。

(2) 歴史文化の特徴と関連文化財群 資料3

事務局：(資料説明)

会長：地域ごとに分けた4つのゾーンの説明が資料3のエクセル表で、地図に落とした資料がある。地域ごと、時代ごとの文化財があるので、時代で繋げるとまた違うテーマが浮かんでくるということでまとめていただいた。

会長：表中のキーワードについて、時代ごとに分けて記載してもらいたい。古代以前、平安から室町までの古代・中世、近世、近代のどこに入るのか分けておいてもらおうと、時代のつながりが見えてくるかと思った。

伊藤：エリアの④は広い。措置を考えた場合に、行政区画と離れていることになるので、関連付けて措置を進めるのが難しいのではという印象。推進体制などで問題が出てくるの

ではないかと思った。

会長：中心となる施設も広がっている。複数の施設で協議会などを作って、足並みを揃えるなど、他とは違ったやり方を考えても良いかと思う。

小野：エリア区分を見て面白いと思った。現状から考えると、地元の方は安芸灘4島と倉橋は関連がないと思っている。瀬戸内海の影響を受けたということで関連があるという、これまでは一緒に考えていなかったことが関連づけられると良い。観光でも、これをテーマに巡ればということになる。これまでにないことが出来る可能性を感じている。

会長：昔は市町村で分かれていたが、似たような漁法がないかとか、呉市という広域の市域になったので、分かれてやっていたものの繋がりが見えてくるような新しい発見があって、新しい観光資源も出てくると思う。小野委員の意見に賛成。

濱田：中心となる施設として大和ミュージアムが記載されているが、近現代の海軍が来て以降の呉の歴史を扱っているのが、海軍とともに歩んだ歴史を一つのテーマとして欲しい。広工廠の歴史も集めているし、リニューアルで広工廠の展示も増やしていこうとしている。広工廠は広で生まれたというのも大事だが。海軍というテーマがあったら、中心的な施設として良いと思う。

会長：A4資料の時代のオレンジ色が海軍。時間軸上のものは地域で分けるのは難しいのが、近代・海軍のテーマで委員会を設置するとかなら、大和ミュージアムでやってもらえるといい。時間軸テーマも、どこを中心にするかも決めていかないといけない。

伊藤：地域計画はアクションプランである視点も重要。計画期間を限った時に、実際にできる内容がないといけない。長期的な視点だと4つの区分はその通りだが、計画期間中にアクションプランとしてやれることを書かないといけないというのもポイントになる。

会長：計画期間はどうか考えているか

事務局：7年で考えている。

会長：最初の7年間に具体的にやれること、それとその先に向けて実施する研究会などがあると、次のやるべきことが決まる。7年間で具体的に起こすこととその先にむけて発見していくことを分けて、措置の中に入れていくと良いのでは。実際に施策を立てて実施すること、将来を見込んで活動することを分けて書くと良いと思った。

戸高：歴史、文化は、現在の自治体の行政区画とは本質的に関係ないので、隣接する市町は関係ないとはならず、近隣の自治体も上手に取り込んでいけるようにして欲しい。

会長：他の市町村、広域での検討をどうするかを計画の中に入れておくべき。

岸：関連文化財群と地区はどの市町でも悩んでいる。呉市は合併もあってどうするのかと思っていたが、なるほどと思った。基本的には異論はない。

砂本：4つの分類は良くできていると思うが、聞いたときにピンとくるテーマになっているか。私は幼い時から呉に住んでいるので理解できるが、サブタイトルがいるのではないか。野呂山、黒瀬川で本当につながっているのか。九嶺の麓ということで、わかる気もするが、市域を4つに割るという行政的な視点が見えてきてしまい、テーマ・ストーリー

一に落とした時に訴求力があるのか。漏れてはいけないという意識があるのは分かるが、議論の余地があるのかと思う。活用の訴求力がないと活用してもらえないのでは。

会長：地理的な4つに加えて、歴史的に括っていくと浮かび上がってくるものがある。まずはこれで全市的に大きく括り、海軍とか近世など重要な時間軸のテーマも出して、改めて設定する必要がある。

砂本：テーマというわりにテーマになってない。地域文化になっている。観光客にとって理解できないワードが並んでいると思う。

会長：阿賀に住んでいたが、広は東広島や賀茂台地との連携が強い。呉の中央とはつながりが弱いイメージがある。同じ地域で扱って良いのか。黒瀬川で広域に関連した文化ゾーンと捉えると、古墳などにも繋がると思うがどうか。

砂本：テーマは書き方で変えていけば良い。これまでの文化財保存と違うのは活用で、面的なケアしていくためにも、テーマを設定する必要がある。未指定文化財を網羅しようとするのは大変で、データベースに上がってきているのを文化財として保存する、地域資産として大事にする、お店として活用するなど、いくつかのフェーズがある。小ストーリーで対応できる入れ子状になっていると良いと思う。

会長：まずはこれで行くが、活用をどうするかというところで、もう一度、見直す必要がある。

事務局：事務局案として提示した4つは、自然環境からの繋がりを重視している。黒瀬川だと賀茂台地とのつながり、島しょ部だと外洋との繋がりがあがる。いろんな視点からのレイヤーを重ねた上で、どこに力を入れていくのかご意見をいただき検討していきたい。

会長：どう活用するか視点も入れながら検討していただきたい。

(3) ヒアリングの実施と推進体制の検討 資料4

事務局：(資料説明)

会長：ヒアリングについて報告あったが、ご意見あれば。うまく繋がってないとか、お金が行き渡ってないとか、各所に出ていて、これこそが計画をつくる意味かと思う。

安倍：郷土資料館の機能の充実。具体的な話としてどのようなものがあつたのか。

事務局：まず郷土資料館をあるの知らない方が多かつた。活動の中で、例えば古民家を掃除すると資料がでてくるが、それを収納する場所が欲しい、郷土資料館のような場所があると良いという具体的な意見があつた。

会長：ヒアリングの結果の要望はデータにしてまとめていただきたい。ヒアリングの結果を踏まえて計画を作成しないと現場と合わなくなる。現場の声があつた上で、7年のアクションを決めて行くということになる。

事務局：まだ途中経過だが、委員のみなさまにヒアリングの結果はお伝えしていきたい。小野委員にも協力してもらって地域の方にヒアリングしている。ヒアリングを踏まえて、文化振興課が地域と繋がれていない現状を理解した。繋がりがや仕組みを作っていないと解決できないこともある。

小野：私の方で文化振興課が把握している団体以外で、文化財の保存活用を目的としていなくても、地域の資源を主体的に発掘・研究して守ろうとしている団体を紹介し、ヒアリングにも同行させてもらった。推進体制に必要なもの、現在足りないものがここに提示されていると思う。地域でどういう活動をしているのか、ヒアリングの詳細の結果も見てみたいと思う。関連文化財群のエリア区分にも関わるが、ヒアリング対象者の活動エリアも注目してもらいたい。「やぶ女」という呉のお祭りをPRしている団体は1だけでなく2にも関わる。「ひろしま自然の会」だと全域。ヒアリング、ワークショップも継続してもらいたい。文化振興課が所管する美術館とか文化施設がヒアリング対象になっていない。呉市立美術館40周年ということで、開館時の館長の言葉が出ていた。美術館ができるということは大学が一つできるのと同じで、それ自体が文化を保存活用する一つの拠点だと書かれていた。これは多くの団体から出た意見だが、文化財についてどこに相談にいけば良いのか分からない。集積されていることも分からない。前回の会議でも意見が挙がったがハコモノを作れば良いわけでないが、拠点は大事だと思う。40年なので美術館も改修などの必要も出てくる。7年計画ということで、入船山のように拠点になりうる場所。拠点整備について、美術館、博物館などにも意見も聞いてみたい。

藤田：ヒアリングについては、今回の策定期間内で終わるのではなく、仕組みづくりとして、ヒアリング自体が継続的な取り組みの対象だと思うので、計画に入れて欲しい。時間が経過すると団体も変わってくる。

(4) 学識者への意見聴取に基づく検討事項について 資料5

事務局：(資料説明)

会長：以前に調査を行ったが、消失してしまったものはリストに入れるのか。

事務局：文化財リストをどう活用するのもあるが、別で整理するのは考えられると思う。

会長：消失した文化財は研究的に使えても、活用しようがない。今回、活用が大事なテーマだとするなら、消失リストはつくっても、一緒にしないのが良いのではないか。

砂本：消失リストも大変なので、わざわざ作る必要はないと思う。

会長：名称について、現在のものとするのか。

岡本：建物がメインで使われたときの名称、建設当初の名称、現在の名称と、建物ごとにはばらなので難しい。個々で検討するか、新旧を並列しておくか。

戸高：その問題は重要で、資料の索引を作る時にひっかかるようにするために、今の人が使うので今の名称となっているのが良いと思う。

会長：原則は現在の人分かる名称とし、この名前は重要というのがあればカッコ書きまたは、説明で書くのを原則とする。

会長：指定や登録が少ないのが現状だが、登録したら利活用できないといった誤解を解くのも必要。あるテーマを決めて、地域のアイデンティティづくりや観光に使っていくための登録制度があっても良い。まとまりを推進するための登録制度みたいなもの。

事務局：各委員で、ご意見あれば個別に事務局にご意見をいただきたい。

(5) 今後のスケジュール 資料6

事務局：(資料6説明)

会長：説明にあったように来年度、6月位の委員会でだいたい素案が固まらないといけない。

その後、行政報告やパブリックコメント等を行う。そのために必要だと思う取り組みがあるなら、今後、来年度の予算の手続きをしないといけない。ご意見があればお願いしたい。

会長：現状のまま進め、各委員の意見を反映していただいて、計画をしっかりとまとめていくということでしょうか。

4 閉会

事務局：藤田会長には議事進行ありがとうございました、長時間のご審議ありがとうございました。以上をもちまして協議会を終了したいと思います。

以上